



広報こざがわ

～復興に向かって～ **がんばろう！古座川** <臨時号2>

災害復旧事業の応援

台風12号による被害の規模があまりに甚大であったため、9月13日から11月18日までの間、国土交通省からは緊急災害対策派遣隊を、和歌山県からは林業技術職員を、海南市からは技術職員を派遣して頂きました。

また東牟婁振興局串本建設部からも機械や人的支援など様々な協力を頂きました。



緊急災害対策派遣隊(国土交通省)

被災した箇所への災害復旧事業を実施するには、災害査定(国の補助金の交付を受けるための検査)を受けなければならず、それに向けた調査・測量や計画書作成を職員とともに行って頂きました。



海南市からの派遣職員

中でも海南市からは課長補佐をはじめ、10月3日より31日間、9名の方々に、町道11箇所及び河川

3箇所について、現地の写真撮影及び設計書作成の作業を、受検当日についても2名の方に補助として同行して頂き、無事終了することができました。



流水により破損した舗装の測量(松根)

今後、年末までに、町道では3箇所(橋梁含む)、林道は16箇所、農地災害では6箇所と農業用施設で1箇所の災害査定を順次受検し、早期復旧に努めて参りますので、ご理解ご協力お願い申し上げます。

【建設課・産業振興課】



設計書作成事務(海南市)



崩壊したの道路の測量(松根)

ボランティアセンターの立ち上げ

台風12号の影響は古座川町にも大きな爪痕を残しました。

9月4日に社会福祉協議会事務所内の泥かきを済ませたものの、何から手をつけてよいのかわからない状態の中、また、町内のどこがどのようになっているのかもわからず、これは大変なことになったと思いました。



活動準備をするボランティアの方々



泥のかき出し作業

9月5日に準備、翌6日に和歌山県社会福祉協議会・串本町社会福祉協議会の協力のもと、古座川町中央公民館に災害ボランティアセンターを設置、ボランティア活動を開始しました。

当初、ボランティア活動希望者の募集は県内在住の方だけに限定していましたが、活動を開始してすぐに県内限定の枠を外し、全国から募りました。

かつて経験したことのない災害を前にスタッフは戸惑うこともありましたが、日々の反省をふまえてセンターの流れを見直したり、被災者やボランティア双方の立場にたったサービスの提供を心がけました。

また、町外から来て頂いたボランティアの宿泊場所として高池上部・池野山両地区の集会所を無料宿泊所として開放させて頂きました。



被災家屋の清掃

このことは後にボランティアの方々からも大変感謝されましたし、ボランティアセンターにとっても車中泊やテント泊よりもその日の疲れた身体をゆっくり休めて翌日の活動に備えて頂くことが出来たのではないかと思います。

活動の内容としては、水が引いた後の水分を含んで重たい畳や家具を出したり、床下の泥のかき出し、拭き掃除・家屋の清掃等です。

9月6日に開設したボ



ボランティアセンターに届けられた寄せ書き

ランティアセンターは10月3日に閉所するまで、全国32都府県約2500名のボランティアにご協力頂きました。

和歌山県内はもとより、遠くは岩手県・鹿児島県、全国各地から応援に駆けつけて頂き、ボランティアの有り難さを痛感いたしました。

ご協力頂きましたすべての方々に篤く御礼申し上げます。

【社会福祉協議会・ボランティアセンター事務局 担当】

被災世帯の健康調査

保健師の家庭訪問

台風12号による災害発生後、住民福祉課では9月13日より、被災世帯の方々の健康調査を開始しました。まず浸水した家屋での生活や、掃除や片付けをする時の状況を考えると衛生面が心配でした。

また疲労やストレスで免疫力が低下してしまう恐れがある中、お風呂が使えない家も多く、冷蔵庫が使えない家庭では食中毒の危険もあるなどの

新宮保健所串本支所（3名）、海南保健所（1名）、紀美野町（1名）、上富田町（2名）、すさみ町（5名）、串本町（7名）、太地町（3



健康調査を行う保健師

名）の計22名の保健師の方々が応援に来てくださいました。9月13日から9月16日までの4日間で、被災地区の家庭訪問を行い、訪問世帯は延べ712世帯、訪問者数は延べ1252人でした。

健康調査では、主に感染症の発生・流行を事前に予防する為の衛生面のアドバイスをを行い、生活状況を調査しました。

また「大きなショックを受けたときの心身の変化」について、2〜3週間間は心身の不調が出やすい時期であることや、症状への対処法などを説明し、何かあればいつでも保健師に連絡して頂くように伝えました。

被災者の方々の主な症状は、片付けやストレスからの疲労が最も多く、他に睡眠障害、食欲不振、喪失感、虚しさ、不安感、

台風・洪水・雨音への恐怖感、子どもの夜泣きや赤ちゃんがえり、服薬中断などがありました。

現在は、新宮保健所串本支所の保健師や在宅保健師の協力を得て、不眠や食欲低下などの疲労以外の症状があった方を再度訪問し、症状が改善に向かっているかを確認しています。

被災から2ヶ月が過ぎました。当初に症状がなかった方が、少し落ち着いてくる時期に今までの疲れが出て、心身に不調をきたすことがあります。

ご自身やご家族、ご近所の方の健康のことで気になることがあれば、お気軽に役場保健師までご相談頂きたいと思えます。

【住民福祉課】

災害後の心身の症状への対処法

- ☆できるだけ食事・睡眠・運動・休息をとるよう心掛けましょう。
- ☆安心できる誰かのそばに。ありのままの気持ちを聞いてもらいましょう。
- ☆深呼吸や簡単な体操、ぬるめのお湯に入浴する等して、リラクスの時間を持ちましょう。
- ☆不注意による事故や怪我をしやすいので、普段よりも気をつけましょう。

心身の苦痛が長引くときは、一人で悩まず相談しましょう。

県内の相談機関	電話番号	受付時間
こころのケアホットライン (和歌山県精神保健福祉センター)	0800-2000-586 (フリーダイヤル)	9:00~17:45 (土日・祝日含む)
新宮保健所串本支所	0735-72-0525	9:00~17:45 (平日のみ)
古座川町役場 住民福祉課 保健師	0735-72-0180	8:30~17:15 (平日のみ)



全力で取り組むごみ対応

台風12号に伴う記録的な大雨で、古座川が氾濫し、流域の多くの家屋や田畑が浸水の被害を受けました。

各家庭からは、水に浸かって使えなくなった家具や畳、電化製品などの災害ごみが次々と運び出され、臨時集積場に指定した空地や広場もすぐに満杯となり、ごみは周辺の敷地にまで溢れ出していました。



ごみの収集作業(高池)



豊岡市からの応援

そのため、新たに集積場を増設し、最終的には10カ所の集積場を設けて対応しました。

初期対応の中で、ごみ収集、処理、運搬に必要な人員を確保することが一番の課題でしたが、早期に協力の申出があり、9月6日より支援を受入れることが出来ました。県外からは兵庫県豊岡市、県内では紀の川市、

かつらぎ町、九度山町、高野町、紀美野町、上富田町、すさみ町、太地町、串本町からの職員派遣をはじめ、多くのボランティアの方々を訪れ、ごみの分別や搬送に協力して頂きました。



高瀬集積場に集められたごみ

中でも水害の被災経験のある豊岡市の支援は、ボランティアの受入れ体制が整っていることや大きな被害を受けたにもかかわらず、マスクミ報道の取り扱いが少なく、支援の手が薄いと考えたため、15名の職員派遣の他

に、ゴミを積み込むための収集運搬用の重機、ダンプトラック、パッカー車などを携えて駆けつけてくれました。



現場に向かう豊岡市の運搬車

おむね処理を完了することができました。集積場から持ち出されたごみは中間処理施設で分別後、焼却、破碎、埋立処理され、一部は再利用資源化しています。災害ごみの持ち出しは今も継続しており、大半は住宅修繕に係る廃材等で、あと数ヶ月はかかる見込みです。

その対応にも全力をあげて取り組んでいきます。

【住民福祉課】

集積場には、約1万5000㎡のごみを持ち込まれ、そのほとんどが水分を多く含む十分な分別ができていないため、通常のごみ処理体制で対応することは非常に困難でした。

しかし、専門の業者や多くの関係機関の協力により、作業が効果的に進められ、10月10日にはお



洞尾集積場に持ち込まれた廃材